

研究の背景と目的

飼料価格が高騰し、酪農経営や採卵鶏経営は危機的な状況に陥っている。このような現状を受け、持続可能な社会を目指した酪農・採卵鶏経営の在り方を追求し、SDGsの観点から解決方法を探ることを目的とする。

研究・調査方法

- ① 6つの生産現場へ赴き、生産者の方へ聞き取りを行った。
- ② 生活協同組合や企業の方へ聞き取りを行った。
 - ・東都生活協同組合（オンライン）
 - ・日本ハム株式会社東京支社への訪問（対面）
- ③ 消費者のAWや畜産物への意識を調べるため、調査会社Questantでパネル調査を行った（2025年1月実施）（回答者110：男性69、女性41）

結果と考察

①	牧場・農場	SDGs的な取り組み
酪農	磯沼ミルクファーム	資源循環
	薫る野牧場	資源循環、牧草利用
	小泉牧場	子供の教育機会
採卵鶏	井上養鶏場	働きがいも経済成長も
	岩沢ポトリー	資源循環
肉用牛	木我牧場	飼料用米を使った肉牛生産



図1:野菜かす入り飼料（磯沼）

- ②（生協）飼料用米の取り組みや生協と生産者との関係について学んだ。（日本ハム）大豆ミートを使用した商品について学んだ。

➡ 飼料用米の増産は飼料自給率向上に繋がる、大豆ミート商品には拡大の余地がある

- ③家畜の飼育方法の認知度は高かった。畜産物購入時の指標としてAW、地球環境配慮を挙げる人は少なかった（図2）。畜産物のもっと知りたいこととして、生産方法や衛生と回答した人が多くいた。

➡ 安全性への関心は高い

性別、年齢、職業でクロス集計を行ったが大きな有意差が見られた設問は少なかった。

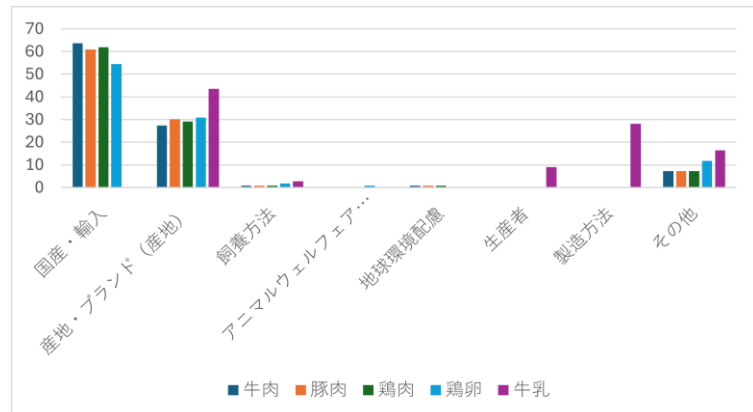


図2：畜産物の購入時に気にすることは何か（SA）

これから

実際に現場を訪問するという貴重な体験により、机上では感じられなかった疑問点や新たな気づきを得ることができた。これからは、持続可能な飼養管理の推進やAWの認知度拡大が必要であると考えます。